



# 手をたずさえて

## 充実の委員会活動 Part1 “交流”、そして“慈善活動”

生徒会委員会活動は、毎日の学校生活に必要な日常的な活動と地域貢献や地域の人々との交流などのイベント的な活動に分けられます。共に大切な活動です。委員会活動が積極的・協同的で意味のある活動になれば、学校全体が活性化します。今回は、校外で行われた委員会活動のいくつかを紹介します。

### 福祉委員会『郡山支援学校との交流活動』

授業交流会全体写真

11月27日(水)には「第2回郡山支援学校との全体交流」が行われました。福祉委員会の生徒約60名が郡山支援学校を訪問しました。最初の全体会では双方の代表生徒が挨拶し、その後本校のえのき・けやき学級の生徒達が体育の授業でお世話になっている早田千佳先生が講師となり、レクリエーションを行いました。ペアでの様々な活動に生徒達は楽しそうに取り組み、笑顔が体育館いっぱいになりました。全体会の後は、福祉委員が小グループに分かれ支援学校の各クラスに入り、福祉委員達が考え準備した様々なレクリエーションを通して親睦を深めました。また、それに先だって11月19日(火)には、第2回目の授業交流が本校で行われました。支援学校の6名の生徒が来校し、ペアになっている福祉委員会の生徒いる4つの学級に入り、授業を一緒に受け、給食を共にしました。支援学校の生徒達は「クラスでいろいろな話ができ、とても楽しかったです。」と感想を述べていました。支援学校での全体交流が2回、本校での授業交流が2回の計4回の交流で、生徒達の間には絆が生まれているようです。歴史をたどれば、この交流活動は平成2年からスタートしており、約30年間続いてきた伝統ある活動です。今後も富中の伝統ある生徒会活動として大切に続けていきたい活動です。福祉委員会前委員長の大橋さんと現委員長の古川さんの2名に、この交流活動への想いをまとめてもらいました。交流による様々な学びがよく感じ取れます。



支援学校での交流活動



私は3年間福祉委員として活動し、とても充実した委員会活動をすることができました。特に郡山支援学校との交流では、支援学校生と2・3年生と同じペアになり、手紙を交換するなど友達になることができました。初めての交流会では上手く会話できるか、楽しんでくれるかととても不安でした。ですが、交流の回数を重ねていくうちに共通点を見つけたり、相手の知らない一面を知ることができたりと、だんだん心の距離が縮まっていくことを感じました。最後の交流会では、支援学校の皆さんの笑顔を思い浮かべながらゲームを作り、それを行い、充実した楽しい時間を過ごすことができました。



私にとって郡山支援学校との交流は、中学校生活の中で限りなく特別な機会だったと思います。それと何より楽しかったです。

私にとって郡山支援学校との交流は、中学校生活の中で限りなく特別な機会だったと思います。それと何より楽しかったです。

(3年大橋七海)

交流から考えたことは、この富田町や郡山市が障がいを持っている人が心地よく住める町になってほしいということです。交流会で支援学校の先生が「車椅子の人が安心して通れるような道が必要」とおっしゃっていました。私には車椅子に乗っている友達があります。その友達は、人が多い道やでこぼこ道だと大変そうに移動しています。確かに車椅子の人が安心して通れる道が必要だと感じました。スーパーや公園などに車椅子や障がいを持っている人が安心して通れるような道やスロープを設置すれば良いと思いました。また、テレビのCMで盲導犬と一緒に入れるお店が増えてほしいという内容のものを観たとき驚きました。盲導犬と一緒に入れないお店もあるとは知りませんでした。少しずつ盲導犬と一緒に入れるお店が増えてほしいと思いました。また、「障がい者だから」という理由で差別をされたりすることが多いと聞きました。上手に話せなくても、目が見えなくても私達と同じ人です。差別すべきではないし、してはいけないと思います。スロープを設置したり、差別をなくしたりするのは、私一人では成し遂げられません。私は誰でもできる支援をしようと思いました。困っている人がいたら、手を差し伸べたり、募金活動を積極的にしたりしようと思いました。支援学校との交流会を通して、いろいろなことを学びました。私達の支援が必要な人がいること、お互いを尊重する大切さなどがわかりました。この学びを生かし、多くの人の力になればいいなと思いました。(2年古川優芽)



## 福祉委員会：地域ふれあい活動『赤い羽根共募金』街頭募金

福祉委員会では、12月12日(木)の生徒会専門委員会の時間に、初めての試みとなる「赤い羽根共同募金」街頭募金活動を実施しました。1年生はザ・ビック喜久田店、2年生はヨークベニマル八山田店、3年生はカインズホームで、約1時間の募金活動を行いました。

生徒達の呼びかけに応じて、多くの方々から募金の協力をいただきました。労いの言葉をかけていただいたり、飲食物やホッカイロ等の差し入れをいただいたりなど、地域の方々の温かさに触れることもできました。募金をしていただいた方々に深く感謝いたします。そして、寒さの中、長時間にわたり募金活動に一生懸命に取り組んだ生徒達、本当にご苦労様でした！募金活動に参加した2年松崎君の感想です。



僕は今回の活動を通して「やさしさ」を感じることができました。今回の募金活動は、寒い中行われました。初めは募金してくれる人がほとんどいなく、少し不安になることもありましたが、でも、10円、500円、1000円と募金してくれる人がたくさんいて、「やさしい人達だなあ〜」と思い、何だか嬉しい気持ちになりました。そして、「頑張ってね」と励ましの声をかけてくれる人もいました。「寒いね」と温かいお茶をくださった人もいました。こんな風に、募金活動だけでなく、活動している僕達も気にかけてくれる人達に心動かされ、寒さを感じなくなるくらいの周りの人の温かさを、身をもって感じました。そして、僕も周りの人に気をかけられる人になりたいと思いました。このように、今回はたくさんの方を学び、たくさんの方のことを考えることのできたいい機会でした。今後、このような活動をする事があったら、積極的に参加していきたいです。

(2年松崎流空)



街頭募金の様子



今回の赤い羽根共同募金では、校内の募金活動では、39,882円。街頭募金活動では、41,049円。計80,931円というたくさんの善意をいただきました。ご協力いただきました保護者の皆様、地域の方々に深く感謝いたします。集められた募金は、12月13日(金)に代表生徒と担当の松田先生が福島県共同募金会郡山市共同募金委員会に届けました。代表の方から感謝の言葉を頂きました。

募金を手渡す大橋さんと古川さん

